

注のつけ方

注をつける箇所に番号をつけ、その挿入順に⁽¹⁾、⁽²⁾……のように記し、注：として以下の約束に従って本文末にまとめて示します。

【約束】

- (1) 図書の場合：著者名または編者名『書名』、出版社、出版年、ページ（頁）
- (2) 逐次刊行物の場合：著者名「論文題目」、『誌名』号数（年）、p. 複数頁にわたる場合は pp. 5～8 のように書きます。
- (3) インターネット上の資料の場合：ウェブアドレス（URL）の情報と閲覧日付を付します。
- (4) 書名は『 』で、論文題目は「 」を用いて示します。

注にあげた資料を除いて、参考にした資料を参考文献リストとして、[約束]にならってあげてください（ページを記す必要はありません）。この場合は番号がつかまないので著者、編者等の A B C 順に記します。

注は出典を中心としてください。それ以外の注記は、できるだけ本文の中に記述するように努めてください。パソコンのワープロソフトの中には、注をつける機能が備わっているものがありますので、それを利用することも可能です。

以下、例を示します。

例 1 横書き

鎖国状態の中で、1864（元治元）年函館から脱国した新島襄は英文手記「脱国の理由」と呼ばれる理由書を残しています。⁽¹⁾ ボストンに着いた新島がワイルド・ローヴァー号の船主、A. ハーディーならびに夫人に提出したものです。

その中の文章から読み取れる新島の人権意識がありました。

「ああ、日本国の将軍よ、なぜあなたはわれらを犬や豚のようにしいたげるのか。われらは日本の民だ」。⁽²⁾

… 同志社に看病婦学校と病院があったことを知り⁽³⁾、

… 「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」の言葉は横田^{やすただ}安止への手紙に書かれている。⁽⁴⁾

（本文末にまとめて）

注：

(1) 新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』第10巻、同朋舎出版、1985（原典 A. S. Hardy, *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima*, 1891 北垣宗治訳）、pp. 11～21

(2) 同上、p. 12

(3) 現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』、丸善、2000年、p. 220

(4) 同上、p. 241

参考文献：（注以外の資料をまとめる）

新島襄への扉編集委員会編『新島襄への扉』、日本キリスト教団出版局、2006年

鎖国状態の中で、一八六四（元治元）年函館から脱国した新島襄は英文手記『脱国の理由』と呼ばれる理由書を残しています。⁽¹⁾ボストンに着いた新島がワイルド・ローヴァー号の船主、A・ハーデーならびに夫人に提出したものです。その中の文章から読み取れる新島の人権意識がありました。

「ああ、日本国の將軍よ、なぜあなたはわれらを犬や豚のようにしいたげるのか。われらは日本の民だ」。⁽²⁾

： 同志社に看病婦学校と病院があったことを知り⁽³⁾、

： 「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」の言葉は横田安止^{やすただ}への手紙に書かれている。⁽⁴⁾

（本文末にまとめて）

注

（1）新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』第十巻、同朋舎出版、1985（原典 A. S. Hardy, *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima*, 1891 北垣宗治訳）一頁～二二頁

（2）同右 一二頁

（3）現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』、丸善、2000、二二〇頁

（4）同右 二四一頁

参考文献（注以外の資料をまとめる）

新島襄への扉編集委員会編『新島襄への扉』、日本キリスト教団出版局、二〇〇六年